

岡山歴研サロン・令和 8 年 3 月 1 日 (日)

『備中高松城水攻め』

前高松城址資料館 館長 **奥田 勝** 講演会

元岡山歴史研究会幹事 2015 年

講演趣旨



備中高松城は、低湿地に位置する典型的な「沼城」で、秀吉軍の兵や馬は攻め入ることができなかった。城主の清水宗治は忠義に厚い武将で、降伏を勧める秀吉に対して頑として応じなかった。

地の利に助けられた堅固な城と、死をも覚悟の上で防戦する宗治を前にして、秀吉軍は完全に攻め手を欠いていた。毛利氏の援軍が駆けつける前に、何としても備中高松城を落とさねばならない。秀吉は参謀の黒田官兵衛と軍議を重ねた。

黒田官兵衛の進言が、膠着した戦局に変化をもたらす。「水によって苦しめられ城が落ちないのだから、反対に水によって攻めたらよいのではないか—」この策を受け入れた秀吉は、直ちに水攻めに向けた築堤に着手。

城の近くを流れる足守川の東・蛙ヶ鼻から全長約 3km、高さ約 7m の堤防を築き、そこに足守川の水を引き込むことで、備中高松城を水の中に取り残された浮城にしてしまった。この築堤工事はわずか 12 日間で完成したと伝えられている。

援軍に駆け付けた毛利氏側の武将、小早川隆景、吉川元春らは、孤立する備中高松城の状況を前に為す術もなかった。

日時 令和 8 年 3 月 1 日 (日) 13:30~16:00

場所 ゆうあいセンター 岡山市北区南方 2-13-1 きらめきプラザ 2 階

申込 板野忠司 0515itano@gmail.com Tel 090-7134-2709

資料代 500 円

皆様のご参加 心よりお待ちしております

岡山県生涯学習大学連携講座